

Q. 静岡県島田市の対向集落（双子都市）「島田」と「金谷」の発展は、時代とともにどのように変化しているだろうか？

1 両地区の歴史



歌川広重 東海道五十三次・嶋田



歌川広重 東海道五十三次・金谷



葛飾北斎 東海道・金谷の不二

2 島田と金谷の立地を読み取る

Question 2

明治と昭和の地図を比較すると、「島田」と「金谷」には、どんな変化が見られるだろうか？

<自分のグループの意見>

<他グループの意見>

Question 3

「金谷」と比べて「島田」が大きく発展したのはなぜだろうか？

<自分のグループの意見>

<まとめ>

ヒント Question 3 に関連して

Q. 金谷町の南にある「牧ノ原」は、どんな場所でしたか？

要点ノート p.18『平野の地形（堆積平野）』の範囲を確認しましょう。

地形：( )

産業：( )

Question 1

3つの浮世絵から、「嶋田」と「金谷」は江戸時代にはどんな役割をもつ町として発展したと考えられるだろうか？

A. 東海道五十三次の( )町

3 大井川河口付近の地形を読み取る

Question 4

蓬萊橋から大井川橋の間に見られる村落の形態には、どのような特徴があるだろうか？

①村落の形態：( )

②このような村落、家屋の形態が取られた理由を考えよう

Question 4 ①に関連して

大井川周辺に見られる村落の形態は、富山県西部でも見られます。

同じ形態の村落が見られるのはどこですか？

富山県( )

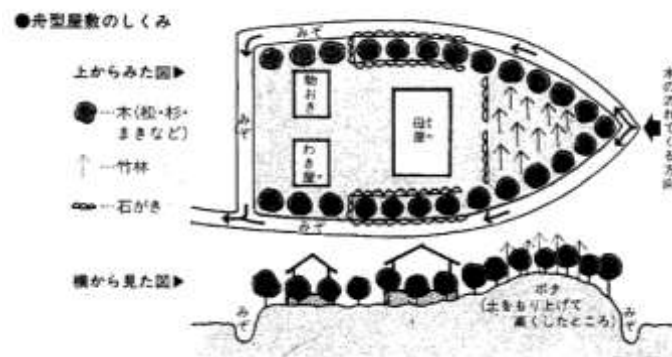
こうした村落の形態が見られる理由も含めて復習しておきましょう。

Question 4 ②に関連して

ヒントA：江戸時代に詠まれた歌

越す箱根八里は馬でも越すが、  
越すに越されぬ大井川

ヒントB：大井川付近に見られる舟形屋敷



Question 5

大井川河口付近の地名から、この付近はどんな地形であると想像できるだろうか？

①河口付近に見られる地形名：( )

②地名から推測できる地形的特徴を説明しよう

Question 6

明治と昭和の地図を比較すると、大井川河口付近の地形には、どのような変化が見られるだろうか？

本時のまとめ

Q. 静岡県島田市の対向集落（双子都市）「島田」と「金谷」の発展は、時代とともにどのように変化しているだろうか？

◇振り返り ※該当するものに○を付けましょう。

授業の内容について〔 わかった ・ だいたいわかった ・ わからなかった 〕

感想

地理B『都市の立地 - 対向集落 - 』

Q. 静岡県島田市の対向集落（双子都市）「島田」と「金谷」の発展は、時代とともにどのように変化しているだろうか？

1 両地区の歴史



歌川広重 東海道五十三次・嶋田



歌川広重 東海道五十三次・金谷



葛飾北斎 東海道・金谷の不二

Question 1

3つの浮世絵から、「嶋田」と「金谷」は江戸時代にはどんな役割をもつ町として発展したと考えられるだろうか？

A. 東海道五十三次の（ 宿場 ）町

※金谷宿（24番目の宿場）、嶋田宿（23番目の宿場）として栄えたことを解説する。

2 島田と金谷の立地を読み取る

Question 2

明治と昭和の地図を比較すると、「島田」と「金谷」には、どんな変化が見られるだろうか？

<自分のグループの意見>

<他グループの意見>

※予想される答え

- 嶋田町の田畑だった部分が住宅や工場になっている。
- 金谷町に鉄道が通った。                      • 金谷町の田畑だった部分が住宅や工場になっている。
- 金谷と比べて、島田は大きく発展している。                      • 嶋田と金谷を結ぶ橋が作られた。
- 島田に道や学校、郵便局、病院などの施設が増えている。

Question 3

「金谷」と比べて「島田」が大きく発展したのはなぜだろうか？

<自分のグループの意見>                      ※予想される答え

- 明治 22 測の地図を見ると、嶋田には駅があるが、金谷には駅が見られない。（嶋田の方が交通の便がよい）
- 島田の周辺は平野だが、金谷は山に囲まれた狭い地区で、発展しにくいと考えられる。
- 昭和 48 編の地図を見ると、金谷町の駅は町の中心部から離れた場所に作られている。
- 金谷の産業は、明治以降も農業（茶）が中心である。

<まとめ>

※交通の発達と都市の発展の関係性について解説する。

ヒント Question 3 に関連して

Q. 金谷町の南にある「牧ノ原」は、どんな場所でしたか？

要点ノート p.18『平野の地形（堆積平野）』の範囲を確認しましょう。

地形：（ 台地 ）

産業：（ 茶、茶園 ）

3 大井川河口付近の地形を読み取る

**Question 4**  
蓬萊橋から大井川橋の間に見られる村落の形態には、どのような特徴があるだろうか？

①村落の形態：( 散村 )

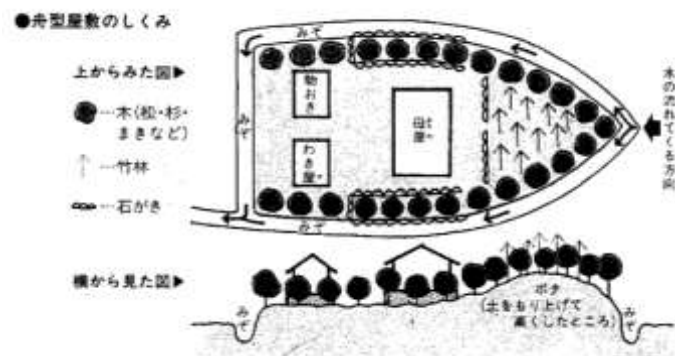
②このような村落、家屋の形態が取られた理由を考える  
※予想される答え  
大井川が氾濫しやすい河川だから。

**Question 4 ①に関連して**  
大井川周辺に見られる村落の形態は、富山県西部でも見られます。同じ形態の村落が見られるのはどこですか？  
富山県 ( 砺波平野 )  
こうした村落の形態が見られる理由も含めて復習しておきましょう。

**Question 4 ②に関連して**  
ヒントA：江戸時代に詠まれた歌

箱根八里は馬でも越すが、  
越すに越されぬ大井川

ヒントB：大井川付近に見られる舟形屋敷



**Question 5**  
大井川河口付近の地名から、この付近はどんな地形であると想像できるだろうか？

①河口付近に見られる地形名：( 新田 )

②地名から推測できる地形的特徴を説明する  
※予想される答え  
「新田」という地名が多く見られることから、江戸時代以降に開拓された新田集落が集まる地域である。この地域の特徴は低湿地であることで、計画的に集落が開発されることが多い。

**ヒント Question 5 に関連して**  
Q. 前々回の授業で使用した地図からヒントを得ましょう。  
岐阜市の「茶屋新田」は、いつごろ開拓された地域で、どんな特徴がありましたか？  
開拓の時期：( 江戸時代 )  
特徴：( 氾濫原、後背湿地、低湿地など )

**Question 6**  
明治と昭和の地図を比較すると、大井川河口付近の地形には、どのような変化が見られるだろうか？  
※予想される答え  
・堤防の整備 (人工的な河口に変化している)  
・後背湿地に集落や工場が増えている。

**本時のまとめ**  
Q. 静岡県島田市の対向集落 (双子都市)「島田」と「金谷」の発展は、時代とともにどのように変化しているだろうか？

◇振り返り ※該当するものに○を付けましょう。  
授業の内容について [ わかった ・ だいたいわかった ・ わからなかった ]



## おおいがわ【大井川】

静岡・山梨県境の赤石山脈北東部、間(あい)ノ岳(3189m)の南斜面に源を発し、静岡市井川の下流からは駿河・遠江の国境をなしつつ南流し、[大井川平野](#)の南西端で駿河湾に注ぐ川。静岡県内に終始する[河川](#)としては最も規模が大きく、特に幹川流路延長 160km は日本の河川の中でも上位だが、反面、全流域面積 1280km<sup>2</sup> は長さに比べて著しく狭く、日本でも屈指の[急流](#)である。おもな支流には上流から寸又([すまた](#))川、笹間川、伊久美川、大代川などがあるが、大きな支流は少ない。

静岡県を流れる川。赤石山脈間ノ岳あいのだけに源を発し、南流して島田市東方で駿河湾に注ぐ。長さ 160 キロメートル。江戸時代には渡船・架橋が禁じられ東海道の難所であった。

**静岡県**中部を流れる川。全長 160km。[赤石山脈](#)の[間ノ岳](#) (あいのたけ) に発し、静岡市井川地区下流からは駿河と[遠江](#)の境を南下して[駿河湾](#)に注ぐ。上流域では山間地に深い峡谷を刻み、ここに畑薙第1ダム、第2ダム、井川ダムがある。ここを過ぎると川根で、再び[接阻峡](#)の深い谷に入り、最大の[支流](#)の[寸又川](#)と合流する。[寸又峡](#)には[南アルプス](#)の登山基地の[寸又峡温泉](#)がある。中流域の川根地方は[河岸段丘](#)が多く、林業や「[川根茶](#)」で知られる良質の茶の特産地。下流域の[島田](#)と[金谷](#)は平地に出る谷口に位置し、[江戸時代](#)、[東海道](#)の難所の一つ、大井[川越](#)徒渉の宿場として繁栄した。大井川下流の扇状地にある集落は散村形態として有名。流域には[中部電力](#)の発電所が点在する。河口に近い吉田はウナギの養殖の中心地。上流は[奥大井県立自然公園](#)に属する。

静岡県中部を[南流](#)する川。[赤石山脈](#)に源を発し、[駿河湾](#)に注ぐ。長さ 168 キロ。江戸時代、[東海道](#)の[要所](#)として[架橋](#)・[渡船](#)が禁止されたため、[人足](#)や[輦台\(れんだい\)](#)で渡河した。

## 輦台【れんだい】

蓮台、連台とも記す。[江戸時代](#)、旅客を乗せて川を渡した台。かつぎ棒2本を付け、人足がかつぐ。梯子(はしご)様の簡単なものから、大名、貴族が駕(かご)に乗ったまま乗る御駕台(おかだい)(大高欄とも。人足 16~24 人くらい)まで種々あった。[大井川](#)の輦台渡は特に有名。

→関連項目 [川越](#)